令和２年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月６日実施）	総合評価（３月 25 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	新カリキュラム実施にあたり、外国につながりのある生徒の学習支援も含め、生徒の包括的ニーズに応じ、生徒を取り巻く社会からの要求が反映された教育課程を開発し、展開する。	①生徒の包括的ニーズに応じた教育課程の編成を継続して行う。 ②日常の授業を通して主体的な学習習慣と基礎学力が定着することを意図として組織的な授業研究を行う。	①各教科において教育課程編成の見直しを具体的に検討する。 ②授業改善に向けて各教科の取組を教科横断的に共有するとともに、異校種との授業研究も進める。	①本校、および生徒の実態に沿うような教育課程となっているか。 ②各教科の授業研究に係る取組を他教科と共有できたか。また異校種との授業研究を進めることができたか。	①生徒の学習ニーズや多様な進路に対応できるように新教育課程の類型枠を検討した。 ②他教科と川崎市立南大師中学校の授業見学を実施した。授業研究会で他教科の協議内容や課題などを共有した。	①生徒の学習支援や進路実現に向けてきめ細かな履修指導の方法を検討する。 ②他教科や異校種との協議が充実できるように授業研究会の実施時期などを検討する。	①生徒の学習支援や進路実現に対して幅広い視野での指導方法を検討してほしい。 ②近隣中学校と連携し、課題を共有することは生徒の学力に応じた授業の計画・工夫を図る上で効果的な取り組みである。	①本校生徒の学習活動や進路活動の実情に対応できる新教育課程を作り上げた。今後はこれに向けての授業改善の検討を各教科で行う。 ②川崎市立南大師中学校との間で、教科ごとに互いに授業見学を実施した。コロナ禍の中で意見交換や協議を実施することができず課題が残った。	①新教育課程に基づく授業方法や生徒の学習活動の取り組み等に対して、各教科に授業改善・評価方法などの検討を進めてもらう。 ②次年度も異校種との授業見学を積極的に行っていく。見学後の意見交換は是非必要であり、新型コロナ感染症の状況によっては、リモートによる実施の検討などを進めていく。
2	生徒指導・支援	生徒が生きていくために抱える様々な課題に、柔軟かつ効率的に対応する指導・支援の効果的手法を導入し、組織的な体制拡充を図る。	①心地よい関係性を築くため、ルールを守り、マナー意識を高めていく指導を実践する。 ②生徒一人ひとりが抱えている課題を正確に把握し、その改善のための指導・支援を充実させていく。 ③部活動の紹介や勧誘を積極的に行い、部活動加入率を 30%に上げる。 ④学校行事の運営や部活動等において、生徒の意見を反映した取り組みを行い、教員全体で組織的に取り組む。	①生徒の実態や特性を踏まえ、厳しくかつ柔軟な指導を通じ、ルール遵守の意識を涵養する。 ②職員及び外部機関と連携を密にとり、生徒一人ひとりに的確かつ迅速な支援を実践する。 ③部活動見学を年に２回程度実施する。また、顧問会議を月１回実施し、教職員が一体となって取り組む。 ④生徒や教員の前年度のアンケート結果から、学校行事の内容を充実させる。	①服装・頭髪・遅刻に対する意識が向上し、またこれらのことに限らず全般的に指導される生徒が減少したか。 ②生徒について、前年度よりも綿密な情報共有を行い、的確な支援策の検討・実施ができたか。 ③部活動の加入率および活動実績が向上したか。 ④生徒によるアンケート結果に係る肯定的な回答の比率が、前年度より向上したか。	①少数ながら指導の対象となる生徒は存在したが、年間を通じて朝の登校指導を行い、大半の生徒は頭髪・服装について改善が見られた。 ②職員及び外部機関との密な連携を通じ、固定観念にとらわれることなく、生徒への迅速かつ的確な支援を実施した。 ③コロナ禍のもと、満足いくような活動はできなかったが、出来る限りのことを生徒会役員とともに実施した。 ④今年度は様々な工夫（感染予防等）が必要となり、新しいことを試みた。限られた中でも満足のできる行事は実施できた。	①頭髪・服装指導について、さらなる指導の拡充を実施するとともに、遅刻指導の実効性を上げる方策を検討・実施したい。 ②個々の生徒の支援策や支援状況について、会議等を通じて多くの職員と情報を共有し、支援へのスキルを高めていきたい。 ③部活動加入率は 25.8%）となり、目標まではいかなかった。引き続き、出来ることから実施し、加入率を上げる。 ④昨年度までの行事と、今年工夫したものを合わせて、より一層、生徒も教員も満足できる行事の実施を試みる。	①頭髪・服装の乱れは「心の乱れ」だと思う。遅刻指導も含めて実効性を上げる指導をしてほしい。 ②年々、生徒指導面は改善されてきていると感じる。学校生活が楽しく充実したものとなるように、日々の活動や行事など生徒たちの声も拾いながら良いものにしてほしい。 ③部活動の積極的な推進のため、具体的な数値目標を掲げ、学校全体で組織的に取り組んでいる。部活の魅力を何らかの形で発信できたらよい。 ④新型コロナ感染症への感染予防に気を付けながらも生徒たちにとって高校時代にしか得られない貴重な体験となる行事を工夫して実施してほしい。	①コロナ禍の中でのマスク着用指導を含めた朝の登校指導を年間を通じて実施した。その際に頭髪・服装についての指導を行い、大半の生徒は改善させることができた。遅刻指導の実効性を上げることが今後の課題である。 ②職員間で生徒情報の共有化を図り、迅速かつ的確な生徒支援を実施することができた。また、外部機関との連絡を密にして生徒の動向を把握した。さらに綿密な情報共有や連絡体制の構築を図ることが必要である。 ③コロナ禍の中で部活動への取り組みが制限されたが、そのような中でも部員および職員が意欲的に活動した。部活動加入率の引き上げが課題である。 ④コロナ禍の中で例年通りの形態で学校行事（体育祭や文化祭など）が実施できなかったが、コロナ対策を含めた様々な工夫がなされ、新たな形態で実施できた。次年度に向けてもさらに対策等を検討する。	①朝の登校指導を継続するとともに、頭髪・服装指導の徹底化を図り、すべての生徒の改善を目指す。遅刻指導については、実効性を上げる方策を職員全体で検討し、遅刻数の減少化を目指す。 ②個々の生徒への支援方法に対する職員のスキル向上の研修会の実施を検討する。外部機関との連絡を密にするとともに迅速かつ適切な行動をとり、生徒支援体制の構築を図る。 ③年度当初より本校の部活動の魅力を発信して部活加入率の向上に努める。また、その他の方策も検討して活気のある学校を目指す。 ④今年度の経験を踏まえて、活気ある学校行事を実施するために、新たな工夫や方策を生徒とともに検討していく。
3	進路指導・支援	様々な生活・生育背景を持つ生徒に対し、自分が「したいこと」「できること」「しなければならないこと」を自覚させ、それに取り組むために必要となる知識と経験を蓄えさせる。	①３年次以降のキャリア設計を充実させ、進路決定率を向上させる。 ②１年次生からのキャリア教育を充実させ、より良いキャリア設計のための取組を進める。	①３年次以降の進路決定率が向上するように指導する。 ②キャリアパスポートを整備し、ＬＨＲ等を活用した１年次生からのキャリア教育を進める。	①３年次以降のの卒業時における進路未決定者の比率が前年度よりも低下したか。 ②２年次年度末の進路希望調査で、希望未定者の比率が前年度よりも低下したか。	①卒業時の進路未決定率が、20.3%から 14.6%に低下した。 ②２年次年度末段階では、進路希望未定という生徒は 0%であった。	①個々の生徒が持つ第１希望の進路決定率をさらに向上させることが課題である。 ②２年次段階での進路希望を実際の進路決定につなげる指導が課題である。	①卒業時の進路未決定率が減少したことは大きな成果である。成功要因を分析し、次年度に生かしてほしい。 ②産業構造や就業構造が変化する中で、生徒たちに職業や進路について意識させ、考えさせる教育を充実していくことが重要である。	①卒業時の進路未決定者の比率を低下させることができた。さらにこの比率の低下を目指すとともに個々の生徒の第１希望の進路決定率の比率を向上させる。 ②コロナ禍の中で、対外的なキャリア教育の活動が制限されたが、生徒の進路意識の向上を図ることができた。これらを持続させることが検討課題である。	①卒業時の進路未決定者の比率が低下した要因を分析し、次年度に反映させる。また、生徒の第１希望の進路決定率を向上させる方策を検討する。 ②生徒への進路意識をさらに高めるため、引き続き対外的な取り組みも含めて検討する。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 25 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月６日実施）	成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	生徒を取巻く大人たちが果たさなければならない役割を相互に意識したうえで、多文化共生の視点も含め、機会に応じた効率的かつ効果的な諸活動を実施する。	①授業や学校行事、課外活動を通じて地域と双方向の交流を進めつつ、地域貢献に取り組む。 ②保護者および地域の外部機関と連携を図り、生徒一人ひとりの安心で安全な学校生活をサポートする。 ③課外活動や学校行事を通じて、地域と双方向の交流を進めながら、地域貢献に取り組む。	①保護者および地域の方々の学校行事への参加率を上げ、協力体制を充実させる。 ②自転車点検を実施し、整備不良の自転車については確実に修理させ、交通安全に対する意識を高めさせる。 ③部活動地域交流会、部活動体験会やゴミ拾いなど、地域とともに学校が発展できるように取り組む。	①体育祭や文化祭などの学校行事においてＰＴＡや地域の方々との連携を積極的に行うことができたか。 ②保護者および外部機関の協力を得ながら自転車点検を効果的に実施し、交通安全に対する生徒の意識を高めることができたか。 ③部活動地域交流会に参加した部活動数が増加したか。 ③部活動体験会に参加した人数が前年度より増加したか。	①体育祭および文化祭において、ＰＴＡとの連携を図ることによって、コロナ禍において、協力体制を充実させることができた。 ②新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から今年度は自転車点検は実施できなかった。 ③地域交流や体験会など、外部との関わる取り組みに関してすべて実施することが出来なかった。（学校説明会とともに部活動体験会は実施した。）	①学校行事を最大限活用しＰＴＡとの連携を強めることができたが、来年度も継続していきたい。 ②来年度はぜひ実施したい。 ③周辺地域の方々と何らかの関わりを見出し、地域貢献や中学生に向けたメッセージを送れるような工夫を検討する。そして実施できるようにする。	①コロナ禍の中、ＰＴＡ活動としては学校と連携し、やるべきことは十分できたと思う。新年度も継続したい。 ②今年度はコロナ禍という特殊な状況下であり、予定していた活動ができなかったのは仕方がない。こうした状況の下では優先順位を付けて、高い順位のものから実施することがよい。 ③コロナ禍で実施できなかったことも多いと思うが、周辺地域との関りはとても大切であり、地域行事などへの参加などを少しずつ広げてほしい。	①コロナ禍において制約される状況下の中、創意工夫をし、保護者並びにＰＴＡと連携及び協力して学校行事に取り組むことができた。次年度は、さらに発展的な協力体制を模索する必要がある。 ②コロナ禍の中で、実施できなかった活動があった。これらをどのような形で実施できるかが課題である。 ③コロナ禍の中で地域貢献活動等の地域と関わる活動ができなかった。しかし、学校説明会を３回おこない、第２回のときは同時に部活動体験会を実施した。今後はコロナ禍の状況下でどのようなに形で地域との交流活動を行えるかが課題である。	①学校行事について、年度当初より保護者並びにＰＴＡと連絡を密にとり、協力体制づくりの検討を行う。 ②コロナ禍という特別な状況下で実施ができなかった活動、あるいは制限された活動があったが、どのような形態で今後行えるかを検討していく。 ③コロナ禍の中で、どのような形態で地域に貢献できるか、他校の取り組み状況や周辺の中学校と連絡を取り合うなどして実施に向けての検討を行う。
5	学校管理 学校運営	本校がもつ「強み」と「弱み」を常に整理しながら、人的および物的資源を有効かつ効率的に利活用した、誰からも愛される学校づくりを進める。	①学校の教育活動等の情報を中学生や保護者、地域に積極的に広報する。 ②学習環境の充実を図り、校内の美化や環境保全により努め、設備・施設を有効活用できるよう整備を行う。 ③安全で安心な学校生活を送るため、地域との連携を含め、危機管理体制を充実させ、感染病予防や防災に対する生徒の意識向上に努めていく。	①ホームページの一層の充実を図る。 ②ＩＣＴの利活用がしやすい環境を整え、本校の特徴である特別教室の充実を図る。 ②生徒の美化意識を高め、環境問題を意識した生活が送れるように啓発活動を行う。 ③防災訓練の機会を有効活用し、生徒が自らの命を守る行動がとれるよう促す。一人ひとりの生徒が何をなすべきかを自ら判断し、自らが行動できるよう、真剣に取り組ませる。	①ホームページについて、前年度よりも速やかに更新することができたか。 ②タブレット端末をはじめとしたＩＣＴ機材の活用を啓発し、視聴覚教室の充実化を図ることができたか。 ②ゴミの分別を徹底し、学校行事などでも資源を有効に活用することができたか。 ③感染病予防のために啓発運動を行うことができたか。 ③難訓練（火災）とシェイクアウト訓練（地震）を実施することによって、生徒の防災意識を高めることができたか。	①ホームページについて、各グループでの更新を推進し、迅速な実施に努めた。 ②タブレットの整備や液晶モニターの設置をはじめ視聴覚教室の整備を進めることができた。 ②学校全体の取り組みとして、資源の有効活用に向けた実践を行うことができた。 ③新型コロナウィルスの感染拡大防止のため、消毒体制の整備と定着および職員と生徒への啓発を行うことができた。 コロナ禍での制約の中で防災訓練を実施することができた。	①ホームページのでさらに多くの情報発信を迅速に行い、広報活動等に生かしていく。 ②職員への研修などを通じて授業の機会などでＩＣＴ機材を使いこなせるようフォローアップ体制を構築する必要がある。 ②ゴミの分別はできているので、今後はゴミを減らす啓発をしていきた。 ③来年度も感染防止体制の継続が要求されるので、今度もこの体制を維持していく必要がある。 コロナ禍において可能な防災訓練の工夫を積極的に取り入れていきたい。	①ホームページの活用は重要である。魅力的なものにして広報活動をしてほしい。 ②コロナ禍でＩＣＴ教育の必要性がますます高まると思われるので、生徒がタブレット等を利用して学習する授業の整備が図れたのはよい。今後も校内のＷｉ－Ｆｉ環境を整備し、ＩＣＴ活用の研修システムの構築を進めてほしい。 ③今年度は特に感染予防のために取組にご苦労されたと思う。現在も未だ収束しているという状況ではないことから、生徒・教職員の方々の感染予防に努めてほしい。	①コロナ禍での学校の対応策等をホームページで随時発信した。情報の発信回数をさらに増やすことが課題である。 ②タブレット端末を活用した授業や各教室に液晶モニターを設置したオンラインによる学習活動を行った。今後はこれらの活用方法を全職員が取得するための研修が課題である。 ③新型コロナ感染症対策として、職員による生徒下校後の消毒作業の徹底、昼食の際の注意事項の校内放送、間隔を空けての手洗いの指示などを実施した。今後はこれらの意識をどのように持続させるかが検討課題である。	①学校の様子を保護者、中学生、地域に伝えるため、ホームページの更新回数を増やす体制を構築する。 ②タブレットを使った授業方法や各教室に設置された液晶モニターの活用方法の研修を行う。 ③新型コロナ感染症の感染予防への意識をいかに生徒・職員ともに持続させるかを検討する。また、コロナ禍における災害発生時の行動について十分な検討を行う。